

# 大学の世界展開力強化事業 取組概要 名古屋大学・東北大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプA-I CAMPUS Asia Pilot Program))

持続的社會に貢献する化学・材料分野のアジア先端協働教育拠点の形成

【プログラムの目的・養成する人材像】

経済力を含め21世紀はアジア地域が世界の科学技術の役割と影響力がますます大きくなる。交流事業を通じて化学・材料分野において世界的視野で活動できる人材を育成する。

【構想の概要】

持続的社會を実現する鍵となる化学・材料教育のアジアにおける中核拠点の形成を目的として、日本(名古屋大学、東北大学)、中国(南京大學、上海交通大學)、韓国(ソウル国立大學校、浦項工科大学校)が参加する化学・材料系の交流事業を行なう。世界のトップレベルの化学系分野を有する各大学の高い研究・教育ポテンシャルを相互に活用し、学生や教員の交換等を通じて世界的な協働教育拠点を形成させる。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

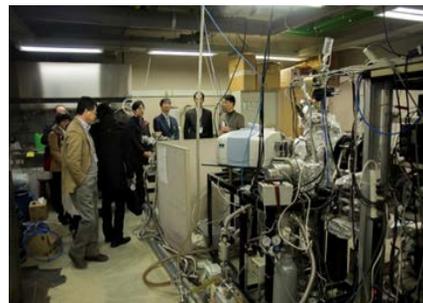
### ○ 日中韓トップレベル大学2校ずつ参加の強力な化学分野のコンソーシアム

上海交通大學、南京大學、ソウル国立大學校、浦項工科大学校とも、それぞれの国を代表する大学である。名古屋大学、東北大学とも、中国・韓国の4つの大学と授業料を免除する「相互交流協定」を既に締結しており、コンソーシアムを形成する大学とは、単位認定や成績管理を統一して実施できる制度を整備している。

### ○ トップクラス学生の交流

各国の意欲的かつトップクラスの学生から選抜する。本プログラムに語学研修を含めることで、言葉の壁を取り払い、グローバルな化学者を目指すことができる。本プログラムでは、英語教育経験のある外国人研究者をキャンパスアジア特任准教授として採用し、化学者育成の英語授業を行っている。また、公開シンポジウムに加え、中韓の連携4大学を訪問し口頭発表を行う「教育交流検討会」を開催している。更に、D2学生には「D2発表会」で英語での研究発表を課すなど、英語での口頭発表を重視した教育を行っている。

(ソウル大での「教育交流検討会」)



## ■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

(第二回 公開シンポジウム(南京大學 2013年3月))

### ○ 公開シンポジウムの開催

平成24年3月12-13日、名古屋大学でキックオフシンポジウムが開催された。第二回公開シンポジウムは、平成25年3月12-13日に南京大學(中国)で100名余の参加者を集めて開催された。第三回公開シンポジウムは、平成25年11月にソウル国立大學校で開催される予定である。

### ○ 連携強化に向けたネットワーク整備

連携大学間でリアルタイムの情報交換を行うため、またネットを通じて国を超えたセミナー開催ができるように、テレビ会議システムを整備した。今後、日・中・韓ネットワークの拡張を目指す。

### ○ 集中講義の実施

共同研究へ向けた少人数の研究交流に係る活動(出前集中講義)も積極的に行う予定である。



## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### ○ 日本人学生の派遣

交換学生では、基本的に大学院生を派遣し、学生が希望する他国の研究室に一時所属して研究活動を通じた実習を行うとともに、各大学に特徴的な講義の受講による単位取得を行う。

平成24年度は、7名の学生を派遣した。

### ○ 外国人留学生の受入れ

受け入れについても積極的に進めていく。H23年度には、中国からの学生1名を受け入れ、平成24年度は、中・韓より17名の留学生を受け入れた。

	H23	H24	H25	H26	H27
日本(J)での受入	C1,K0	C15,K7	C6,K6	C6,K6	C6,K6
中国(C)での受入	J0,K0	J19,K3	J6,K5	J6,K5	J6,K5
韓国(K)での受入	J0,C0	J12,C3	J6,C5	J6,C5	J6,C5

注)実績値は白色、計画値は灰色

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

### ○ 名古屋大学・東北大学における整備

両大学ともに、G30プログラムに採択されており、外国人講師の雇用や英語講義プログラムの充実、国際交流協定の拡大、留学生宿舍整備等を積極的に進めている。

### ○ ショートステイ・ショートビジット(SSSV)との連携

平成24年度は当事業の枠組みと連携させた形のショートステイ・ショートビジット事業が採択された。3か月に満たない学生の交流についても体制を整え、学生あるいは受け入れ側の諸事情に柔軟に対応させて学生を交流させる仕組みを作った。平成24年度実績は、受け入れ7名、派遣5名である。平成25年度以降も必要に応じこのSSSVとの連携を活用する予定である。

## ■ 教育内容の可視化・成果の普及

### ○ ホームページの開設・充実及び公開シンポジウム等を利用する直接的な広報活動

平成23年度にキャンパスアジア専用のホームページを開設し、広報活動と情報を広く共有できる環境を整えた。ホームページ充実の一環として、東北大学キャンパスアジアホームページを公開した。ホームページ充実と並行して、「公開シンポジウム」や「教育交流検討会」の場を利用し、日本に留学した学生の協力を得て、留学生周辺の学生、周辺研究室へ学生交流・研究交流の輪を広げていく。